

# I 総 説

## 1. 所在地

本 場 鳥取県岩美郡岩美町大谷  
境港分場 鳥取県境港市栄町 水産会館内

## 2. 沿革

明治 33年 10月 鳥取市東町県庁構内に設置  
明治 44年 3月 一旦廃止  
大正 5年 4月 鳥取市東町県庁構内に再設置、西伯郡境町に境分場を  
設置  
昭和 4年 4月 八頭郡若桜町糸白見に若桜増殖場を設置  
昭和 12年 1月 本場を鳥取市賀露町に移転  
3月 境分場を廃止  
9月 試験船鳥取丸(23.56トン、D90馬力)進水  
昭和 13年 3月 若桜増殖場廃止、西伯郡宇田川村本宮に大山増殖場を  
新設  
昭和 14年 7月 増殖作業船第1初鷹丸(3トン、8馬力)進水  
昭和 15年 4月 漁村中堅青年養成講習部を本場に併置  
10月 試験船第2鳥取丸(6トン、12馬力)進水  
昭和 17年 5月 本場を鳥取市東町県庁構内に移転、賀露町の施設は賀  
露分場として存置  
昭和 18年 7月 潜水作業船第2初鷹丸(5トン、10馬力)進水  
9月 鳥取震災のため本場並びに賀露分場損傷を受く  
昭和 20年 4月 漁村中堅青年養成講習部廃止

昭和22年	4月	米子市内に中海調査所を新設
昭和24年	3月	中海調査船春風(0.77トン、3馬力)購入
	8月	第1初鷹丸廃船
	11月	第2鳥取丸廃船
		岩美郡岩美町大谷に本場庁舎を新築、県庁構内より移 転、西伯郡境町岬町に境分場を新設、中海調査所廃止
昭和25年	3月	第2鳥取丸(6.18トン、15馬力)進水
	6月	鳥取丸廃船
昭和28年	3月	試験船だいせん(47.77トン、D180馬力)進水
昭和29年	11月	春風廃船
昭和30年	9月	鳥取丸(18.87トン、50馬力)購入
	10月	第2鳥取丸および第2初鷹丸廃船
昭和32年	4月	東伯郡三朝町三徳門前に三朝養魚場を新設、大山増殖 場、米子養魚場廃止
昭和34年	9月	伊勢湾台風により三朝養魚場被害
昭和36年	6月	三朝養魚場廃止
昭和38年	11月	鳥取丸廃止
		鳥取丸(鋼19.87トン、D120馬力)購入
昭和40年	10月	だいせん廃船
昭和41年	3月	第1鳥取丸(鋼99.14トン、D400馬力)進水
昭和42年	1月	鳥取丸を第2鳥取丸と改称

### 3. 施設概要

本 場

敷 地……3,051.23 m<sup>2</sup>

建 物……本館 ( 木造 2 階建 )	5 7 1.9 6 m <sup>2</sup>
浅海養殖施設 ( 1 3 面 )	1 2 2.3 2 m <sup>2</sup>
倉 庫	5 9.5 0 m <sup>2</sup>

境港分場

敷 地……3, 2 5 9.5 8 m <sup>2</sup>	
建 物……事務所 ( 境港水産会館内 )	1 9 1.7 5 m <sup>2</sup>
作業場	1 4 8.7 6 m <sup>2</sup>
倉 庫	6 9.4 2 m <sup>2</sup>

試験船

第 1 鳥取丸

根 拠 地	境港市
船 質	鋼 製
総純トン数	9 9.1 4 トン
主要寸法	長 2 5.0 1 m
	巾 5.6 0 m
	深 2.6 0 m
容 積	魚 艙 4 0, 0 8 2 m <sup>3</sup>
	燃 料 3 1, 5 7 0 m <sup>3</sup>
	清 水 8, 4 0 2 m <sup>3</sup>
主 機 関	過給機付ディーゼル 4 0 0 馬力 可変ピッチプロペラ ( 阪神 )
補 機 関	ヤンマディーゼル 4 8 馬力 2 台
速 力	最大 1 0.8 k t、航海 1 0.1 3 k t
進 水	昭和 4 1 年 3 月 2 1 日
造 船 所	高知市 高知県造船 K K

主要設備 無線：SSB ( 100W、50W、20W )  
 魚探：産研ANBⅡ-1500  
           // ANBI-500  
 レーダー：MD-808A  
 ロラン：JNA-103  
 方探：KS-321UA-Ⅱ  
 底曳揚網装置  
 自動イカ釣機 ( 5台 )  
 測深儀 ( TS-1型 )

第2鳥取丸

根拠地 岩美町  
 船質 鋼製  
 総トン数 19.86トン  
 主要寸法 長 15.07m  
           巾 3.20m  
           深 1.64m  
 容積 { 魚 艙 2.0 m<sup>3</sup>  
       燃 料 1.6 m<sup>3</sup>  
       清 水 2.0 m<sup>3</sup>  
 主機関 ヤンマーディーゼル 100馬力  
 速力 最大 9.0kt、航海 8.5kt  
 進水 昭和38年1月  
 造船所 長崎市 KK井筒造船所  
 主要設備 無線：SSB ( 2.5W、10W )  
           魚探：産研NTB-1500

ロラン：古野LT-12

方探：TA-B5

### 浅海養殖施設

建設年月 昭和38年3月

沈澱槽 2面 6 m<sup>3</sup>

戸過槽 1面 7 m<sup>3</sup>

貯水槽 2面 55 m<sup>3</sup>

### 飼育培養槽

飼育水槽 2.0 × 1.0 × 1.0 m 3面

" 2.0 × 1.5 × 1.0 m 4面

" 3.15 × 2.5 × 1.0 m 1面

生態実験水槽 2.0 × 0.8 × 1.0 m 3面

予備実験水槽 2.0 × 0.6 × 0.6 m 1面

培養水槽 2.0 × 1.5 × 1.0 m 1面

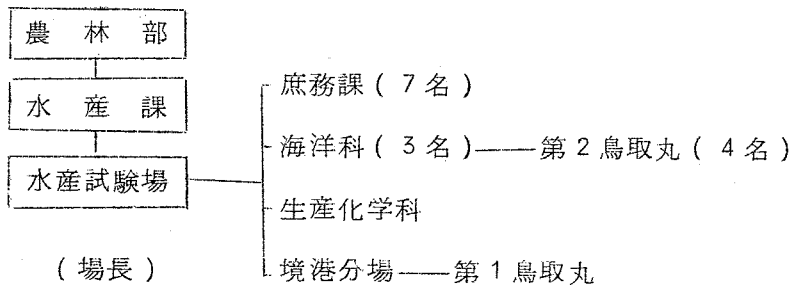
揚水施設 5馬力 1台 (最大6 m<sup>3</sup>/h)

給水施設 3馬力 1台 (最大40 m<sup>3</sup>/h)

送気施設 1馬力 1台

### 4. 組織 (昭和43年1月1日)

#### 組織および系統図



## 職員現員表

( ) 内兼務

	庶務係	海洋科	生産化学科	境港分場	合計
場長	1				1
科(分場係)長	1	1	1	1	4
主事	2			1	3
研究員(技師)		1	(2) 4	3	8
船員		4		1 2	1 6
定員外	3	1		2	6
計	7	7	(2) 5	1 7	(2) 3 8

## 5. 事務分掌 ( 43. 3. 31 )

科(係)	職名	氏名	職務
	場長	井村幸二	場運営の総括
庶務係	係長	村上瞭一	予算人事・庶務等係事務の総括
	主事	細川淳太郎	予算・経理等
	"	橋本千代野	給与・文書等
海洋科	科長	山崎兼三	沿岸漁業関係調査研究の総括
	研究員	小林啓二	沿岸漁業関係調査・研究
	船長	西山勇二	第2鳥取丸運航管理
	機関長	博田繁幸	" 機関管理
	機関士	田中洵	" 乗組
	船員	沢富一	" 乗組
生産化学科	科長	中野麟一	浅海増養殖・内水面関係の総括
	研究員	俵正夫	浅海増養殖試験・研究

科(係)	職名	氏名	職務
生産化学科	技師	梶川 晃	浅海増養殖試験・内水面調査
境港分場	分場長	小田切 忠夫	沖合漁業漁海況関係の総括
	研究員	佐野 茂	水産物利用・水質調査等
	"	野沢 正俊	沖合底曳・技術改良関係
	"	川口 哲夫	スルメイカ漁業・旋網漁業関係
	主事	山本 佐代子	分場庶務一般
	船長	早野 一成	第1鳥取丸運航管理
	機関長	石谷 忠良	機関管理
	漁撈長	仲山 晴雄	漁撈総括
	通信士	松本 仁	通信管理
	航海士	前田 勝美	乗組
	機関士	大西 宏好	"
	船員	小谷 弘文	"
	"	浜田 利幸	"
	"	川西 恒信	"
	"	宇野 巍	"
	"	宮脇 富士雄	"
"	吉沢 盛夫	"	
生産化学科	普及員	武田 尊徳	本務水産課課長補佐
(兼務)	"	井上 忠雄	" 水産課
	他に臨職	6名	

6. 予 算 ( 昭 和 4 2 年 度 )

才 入

事 業 名	予 算 額	摘 要
沿岸漁業振興試験費	200,000	
沖合漁場開発調査費	7,340,000	
浅海増殖試験費	50,000	ワカメ種苗生産売払10円×5,000m
計	7,590,000	

才 出

( 予 算 科 目 別 )

科 目	予 算 額	摘 要
1.配 酬	1,050千円	水産試験場費
4.共 済 費	66	
7.賃 金	91	
8.報 償 金	246	
9.旅 費	2,759	
11.需 用 費	9,795	
12.役 務 費	1,972	
13.委 託 料	36	
14.使用料及賃借料	790	
18.備 品 購 入 費	2,056	
19.負担金補助及交付金	18	
27.公 課 金	1	
合 計	18,880	



( 事業別 )

事業名	予算額	摘要
試験場運営費	1,760千円	
沿岸漁業振興試験費	777	
沖合漁場開発調査費	8,809	
ズワイガニ調査費	918	国庫補助 100
内水面増殖試験費	100	
浅海増殖試験費	1,260	国庫補助 500
漁獲物鮮度保持試験費	80	
水産業専門技術員指導試験費	508	国庫補助
水産資源委託調査費	300	全額国庫委託
漁況海況予報調査費	1,978	国庫補助
漁場観測速報費	78	国庫補助 39
船舶維持修繕費	2,312	
計	18,880	